

令和 6 年度 広島生活福祉専門学校
自己点検・自己評価

学校法人 中川学園
広島生活福祉専門学校
実施責任者:校長 中川義基
記載責任者:教頭 田中朱実

基準 1 教育理念・目的・育成人材等

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2 学校の特色は何か	4
1-3 学校の将来構想を抱いているか	2

＜現状と課題＞

- 本校は、教育基本法及び学校教育法に従い、福祉に関する必要な知識・技能を付与する教育を行う目的とし、福祉の専門知識や技術を身に付け、介護福祉士国家試験の受験資格を取得させ、福祉分野で幅広く活躍する人材の育成を教育目標としている。
また、東海大学付属望星高等学校(通信制課程・普通科)との技能教育連携制度により「高校卒」の資格を取得させる。「同時入学・同時卒業」を原則としているため、卒業生は全員、東海大学付属望星高等学校の卒業資格を取得する。
- 「超高齢社会の到来」と「2025年問題」等福祉の現場は大変な人手不足で、介護職の需要が高まっているにも拘らず、福祉を希望する中学生が少ないのが課題である。

基準 2 学校運営

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
2-4 運営方針は定められているか	4
2-5 事業計画は定められているか	4

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3
2-8 意思決定システムは確立されているか	3
2-9 情報システム化等による業務の効率化は図られているか	2

＜現状と課題＞

- ・ 姉妹校三校及び関連施設から選出された評議員・理事から成る評議員会・理事会で学校運営方針を協議し、決定している。
評議員会・理事会で決定された運営方針に基づき、各校の管理職からそれぞれの教職員に伝達されている。また学校の目的、目標に基づき、分掌、教務規定、服務規定等が定められている。また長年の経験により、教務・校務・生徒指導等の事案に対して教職員に周知徹底されており、意思決定システムは支障なく遂行されている。
- ・ 情報システム化等については学校法人全体として整備が進んでいないのが課題である。

基準 3 教育活動

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
3-10 各教科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4
3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	3
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	4
3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	3
3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
3-18 資格取得の指導体制はあるか	3

＜現状と課題＞

- ・ 超高齢社会の到来を見据え、「介護福祉士国家試験受験資格取得」に向けて、時代の変遷により日々変わる制度に合わせ、その都度、科目・単位等学則変更し対応してきた。介護福祉士に必要な知識と技術を修得できるカリキュラムを編成し、修業年限3年で

修了できるよう業界が求める人材育成に努めている。

- 学校生活の中で、遅刻・欠席の指導、規律を守る指導、学力を身に付ける指導等人間教育を通してキャリア教育につながる指導をしている。東海大学付属望星高等学校との技能教育連携の非連携科目担当者は全員「高校の教員免許」所持者である。また連携科目の教員の中には姉妹校が連携している大学の講師として、5年間福祉現場で実務経験のある介護職員や長年看護師として病院等での勤務経験のある教員等介護福祉士や社会福祉士、高校「福祉教員免許」を取得している。
- 1992年に東海大学付属望星高等学校と技能教育連携を結び、以来「教務規定（成績評価について）」を定め、その基準に照らして卒業判定会議・進級判定会議を実施している。
- 2022年度改訂の「高等学校学習指導要領」により観点別評価の導入・特別活動の目標の実践等新たな観点で指導内容を見直し、2024年度も実践することができた。

基準 4 教育成果

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4
4-20 資格取得率の向上が図られているか	4
4-21 退学率の低減が図られているか	2
4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2

＜現状と課題＞

- 学校法人中川学園には福祉関連施設(施設介護 2, 在宅介護 1)がある。また卒業後の進学先として姉妹校広島福祉専門学校「介護福祉科(2年制)」があり進路選択に有利である。2024(令和6)年度の卒業生は全員が介護福祉士国家試験の受験資格の一つである「実務者研修」を修了し、福祉関係の専修学校への進学、福祉施設への就職を決めた。
- 退学率に関しては、2024年度は退学者を出すこともなくそれぞれが卒業、進級ができた。

基準 5 学生支援

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
------	---------------------------------

5-23 就職に関する体制は整備されているか	4
5-24 学生相談に関する体制は整備されているか	3
5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか	2
5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	1
5-29 保護者と適切に連携しているか	4
5-30 卒業生への支援体制はあるか	2

＜現状と課題＞

- ・ 例年3年次の担任が二者懇談や三者懇談を通して、進路希望を把握し、「求人票」を参考に応募書類の準備・指導を行う。履歴書の書き方や小論文の指導、面接指導等丁寧に個別指導している。
- ・ 新型コロナウイルスも「5類」に移行され、基本的な感染予防対策は継続して実行している。2024年度の新型コロナウイルス感染者は教員・生徒を含めゼロであった。

基準 6 教育環境

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	3
6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	1
6-33 防災に対する体制は整備されているか	3

＜現状と課題＞

- ・ 校務分掌で「営繕・美化係」が随時点検し、問題個所があれば法人に報告、必要があれば業者に修繕を依頼している。2024年度も特段 校具・教具を整備する必要はなかった。
- ・ 防災に関しては、3か月ごとに防災点検を実施している。また毎年9月に「防災教育」を実施。2024年度は2014年8月の広島市豪雨災害から10年の節目を迎え、広島市安佐南区にある「広島市豪雨災害伝承館」を訪問し、展示スペースの見学や研修室での防災・減災学習講座を受講、救命・救急・AEDの学習も体験した。
- ・ 学外実習、インターンシップ、海外研修等については特になし。

基準 7 学生の募集と受け入れ

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
7-34 学生募集活動は、適正に行われているか	
7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	
7-37 学納金は妥当なものとなっているか	

＜現状と課題＞

- 本校は1921(大正10)年に和裁専門学院を開設以来、時代の趨勢に合わせ、1991(平成3)年に「中学卒対象の福祉科」を新設、1992(平成4)年に東海大学付属望星高等学校との技能教育連携制度により「高校卒」を取得できるようにするなど学校存続に向けた様々な取り組みを模索してきたが、長年にわたり大幅な定員割れが続き、2024(令和6)年度から「入学者募集停止」を決定。
- 在校生に対しては、2026(令和8)年3月に卒業するまで、本校が掲げる教育目標に基づく教育活動を行う。

基準 8 財務

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
8-38 学生募集活動は、適正に行われているか	
8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2
8-40 財務について会計監査が適正に行われているか	3
8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3

＜現状と課題＞

- 評議員会・理事会での収支決算では三校とも定員割れのため財務基盤は安定しているとはいえない。
- 年度予算・中期計画は学校法人の実情に合わせ計画され、実施されている。また評議員会・理事会で選出された監事により会計監査は適正に行われている。
- 財務情報公開は必要な時には準備はできている。

基準 9 法令等の遵守

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3
9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	2
9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	2

＜現状と課題＞

- ・ 学校教育法及び学校教育法施行規則「専修学校設置基準」に基づき、授業時数、教科、教員、施設及び設備を満たす基準を遵守している。2023年度に広島県学事課に「募集停止」について提出。
- ・ 保護者へは入学手続き時に「肖像権及び掲載許可承諾書」を同封し、提出してもらっている。また生徒の住所録や連絡網は知らせない、生徒間の情報は漏らさない等学校生活で起こりうる事態には適切に対処している。
- ・ 在学生の個人的情報は紙面で管理し、ネットにつながっていないPCに保管している。またHPにおいても極力生徒の顔写真は出さないように配慮している。
- ・ 「自己点検・自己評価」に関しては年に1回行い、常に視野に入れて校務を遂行し、HPで公表している。

基準 10 社会貢献

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3、 やや不適切…2, 不適切…1
10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	2
10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	1

＜現状と課題＞

- ・ 超高齢社会の時代にあって、福祉分野の担い手としての人材の育成は社会に貢献していると思う。在学中に「実務者研修」を修了し福祉現場で「実務経験3年以上540日以上」をクリアすれば介護福祉士国家試験が受験できることは就職先の施設にとっては大変意義のあることである。
- ・ 生徒のボランティア活動は奨励しているが、積極的に参加する生徒がいないことが問題である。